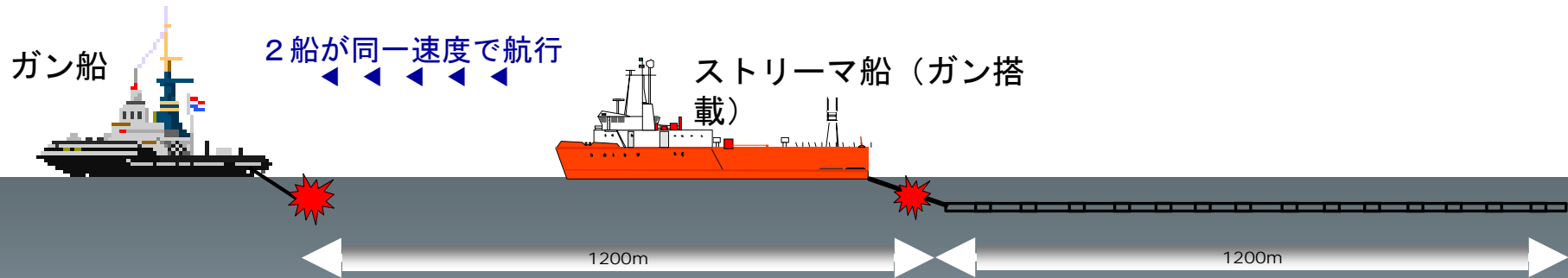


多船式データ取得法

深部までを対象とする場合には長大受発震点オフセット距離を必要とするため、数千mの長大ストリーマケーブルが必要です。しかし、水深の浅い海域や漁業活動が盛んな海域ではこのような長大ケーブルや大型船の使用はできません。これを解決する方法として多船式データ取得法があります。震源と受振ケーブルとを別の船に搭載することにより、短いストリーマケーブルでも長大オフセット距離に実現が可能になります。さらに、この方法により3次元調査も可能になります。



▼ 2船式の例



2船が1200mの距離を保ったまま航行し、交互に発震することにより、2400mのケーブルと等価なデータを取得することができます。2船間の距離を2400mとして再度測定すれば、3600mケーブルとほぼ等価なデータが得られます。また、ガン船を2隻使用し、それぞれ1200m距離に配置すれば、一度に3600mケーブルとほぼ等価なデータが得られます。進行方向を2船で逆にした場合は、狭い範囲で極めて高重合のデータを得ることもできます。**このような多船式測定を可能にするためには、高精度な航測システムと熟練した航測技術者が必須です。**この方式を使い、1200mケーブルで最大オフセット10kmを超えるデータを取得した実績があります。